# 第 117 回　ナポレオンの時代

皇帝ナポレオン1世

## 1　ナポレオンの皇帝即位とナポレオン戦争

・1804 年、ナポレオンは、国民投票により皇帝ナポレオン１世となった。
　※この政治体制を（　　）という。
　→それに対しヨーロッパ諸国は、翌年（　　）を結成した。

☆第一帝政（ナポレオン帝国）（1804 年 5 月～1814 年 4 月）

・1805 年、ナポレオンはイギリス征服を考えるが、（　　）で、（　　）提督ひきいるイギリス海軍に敗れた。

・しかし同年、（　　）でオーストリアとロシアの連合軍を破り、第３回対仏大同盟を解消させた。

ベートーヴェン
皇帝即位を知ったベートーヴェンは、「ボナパルト」という楽譜の表紙を、ぐしゃぐしゃにした。

ネルソン提督

トラファルガー広場

伝説的な名将であるネルソン提督は、右目と右腕を失っていた。ロンドンのトラファルガー広場には、現在も柱の上にネルソン提督の像が建っている。

ナポレオン1世

フランツ2世

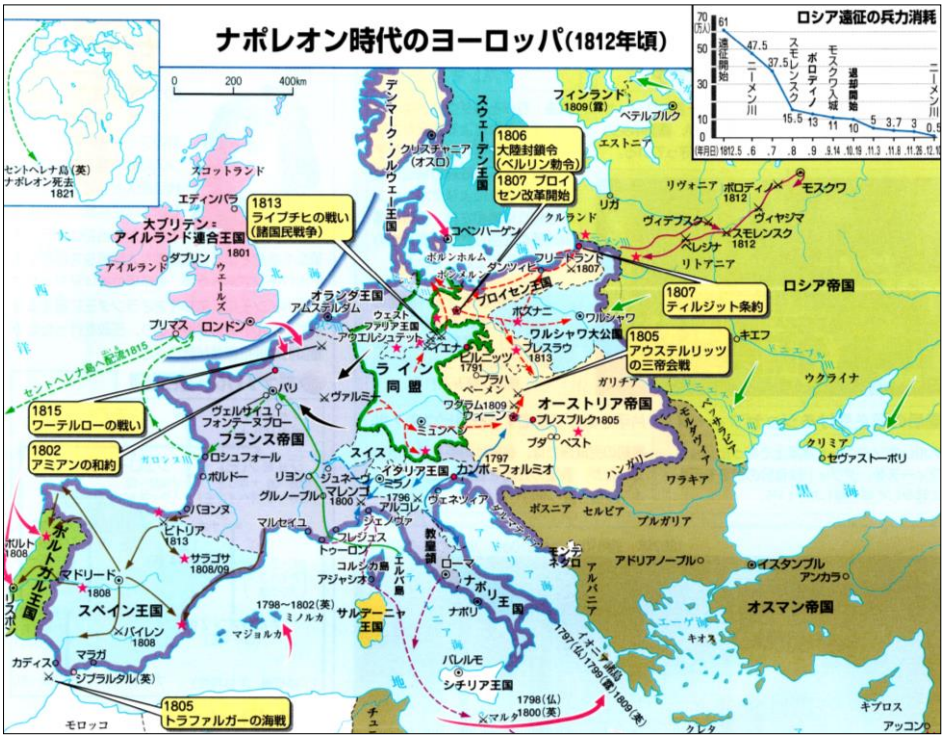
アレクサンドル1世

アウステルリッツの三帝会戦は、文字どおり3人の皇帝が戦ったために、こう呼ばれる。天才ナポレオンによる見事な指揮は、芸術の域に達しているとされた。

・1806 年 7 月、西南のドイツ諸侯に、（　　）を結成させた。
　→名前だけ残っていた（　　）が正式に決まった。

・1806 年 10 月、イエナの戦いでプロイセン軍にも大勝した。
　→1807 年、（　　）を結び、ヨーロッパのほとんどを支配した。
　→この条約により、ポーランドに（　　）を設立させた。

ダヴィド作「ナポレオンの戴冠式（部分）」
ナポレオンは、ローマ教皇からではなく、自らの手で冠を頂いた。その後、妻のジョゼフィーヌにも冠をさずけた。この絵はほぼ実物大に描かれている。なおナポレオンは、1809 年にジョゼフィーヌと離婚し、翌年オーストリア皇帝の娘であるマリー=ルイーズと政略結婚した。



## 2　ナポレオンの支配に対する反発

・ナポレオンは、ヨーロッパ各地に属国をつくり、兄弟などを国王として置いた。
・フランス革命の自由、平等という理念に支えられたナポレオン軍は、最初各地で絶対王政からの解放者として歓迎された。
　→フランス革命の動力源である（　　）が、各地に浸透していった。
　→人々は、外国人であるナポレオンの支配に疑問を感じるようになった。

＜プロイセン＞

・ティルジット条約により、プロイセンは賠償金を課せられ多くの領土を失った。
　→（　　）、つづいて（　　）が、都市の自治、農民解放（農奴制の廃止や職業選択の自由）、軍制改革などさまざまな改革を行った。
・（　　）は、「　　」という講演でドイツ人の愛国心を高めた。

シュタイン

プロイセン王国の首相を務め、農奴解放や、軍制改革などを行ったが、ナポレオンににらまれて失脚した。

ハルデンベルク

シュタインの後、プロイセン王国の首相となった。この二人の改革により、プロイセン軍も、国民軍となっていった。

フィヒテ

哲学者で、ヘーゲルなどと並んで、ドイツ観念論を代表する人物である。ベルリン大学の初代総長でもある。

＜スペイン＞

・スペインでは、ブルボン朝の王が追放されたあと、ナポレオンの兄ジョゼフが国王についていた。
　→1808 年以降、フランスに対する反乱が続発した。

・スペイン人は、強力なフランス軍に対し、各地で小規模な抵抗を続けた。
・またスペイン人画家の（　　）は、強大なフランスに抵抗する民衆を題材にした絵画を多く描いた。

ゴヤ（弟子）作「巨人」

ゴヤは、スペインの民衆を巨人に例え、ナポレオンの侵略に対して立ち上がる姿を描いたとされる。
ただし最近になって、ゴヤ本人ではなく弟子の作品だとわかった。

ゴヤ作 「マドリード、1808 年 5 月 3 日」

ゲリラ戦を展開するスペインの民衆に対して、ナポレオンは熾烈な報復を行った。
手を広げる男は、十字架のイエスを模していると言われている。
絵のタイトルは様々な表記があるので注意。
ゴヤを見るならスペインのプラド美術館へ！

＜ロシア＞

・1806 年、ナポレオンは、抵抗するイギリスを孤立させ、フランスによる大陸市場の独占を目指して、（　　）をベルリンで発した。
　→ヨーロッパ大陸とイギリスとの貿易や交通を全面禁止した。
　→小麦などの穀物をイギリスに売っていたロシアは、非常に困った。